

・青年団研修・

去る6月13日～14日、青年団研修が開催され、全国各地から参加者33名が日本青年館に集った。

当日は、一般財団法人日本青年館の佛木完常務理事が青年団・日青協の歴史と社会運動の歩み



各講義の後には、出身県・役職・青年団歴も異なるメンバーで分科会を実施。

について講演。また、各地の実践発表も行われ、1日目には、南陽青年団（山形県）・権現堂青年団（茨城県・埼玉県）、泉佐野市青年団協議会（大阪府）、岡山県青年団協議会に、2日目は、機関紙・広報紙の教宣活動に取り組む石川県青年団協議会、

球磨郡青年団協議会（熊本県）が発表した。外部講師としてお招きした駒澤大学の萩原建次郎教授から頂戴した「地域の若

者にとって青年団はカッコいい存在」という言葉に、自信と誇りを感じた参加者は少なくないはずだ。二日間の学びを通して、改めて青年団活動の意義を捉えなおし、地域で自分たち何ができるかを考える契機となったのではないだろうか。夏から秋にかけて、道府県青年大会をはじめとする各地域での実践が本格的に始動していく。自分たちらしく一年間の活動に取り組み、その成果と課題を、来年3月に開催される第71回全国青年問題研究集会に持ち寄ろう。今後も各地の仲間と共に、更なる学びを深めていきたい。

・第57回北方領土復帰促進 婦人・青年交流集会・

7月3日～5日にかけて、今回で57回目を迎えることとなった北方集会在羅臼町、根室市を中心に開催され、青年団18名、全国女性団体連絡協議会（全女会）20名が参加した。

洋上の制限区域まで近づくことができる。その日は生憎の霧でぼんやりとしか見ることは出来なかったが、その距離と島の大きさを感ずることができた。

グループディスカッションでは地元で行っている北方領土問題への取り組みの共有、本集会後に地元に戻り何ができるか、青年団と女性会との連携についてグループワークを行った。参加者からの感想で多くあがったのは芸人のアップダウンを県民会議やイベントで活用したいという内容で、これは全国各地の青年や女性会が集まり語り合うことで、様々な取り組み事例を知ることができ、そ

羅臼町で行った開会式では元島民二世の2人の方々からの講話をしていただいた。参加者が北方領土問題の歴史背景や今日に至る現状を現地の方々からの生の声を通して聴くことにより、学校の授業では学ぶことができないリアルな戦後を再認識できたと感じた。

その後、遊覧船に乗り洋上での国後島視察に向かった。天気が良ければ陸からも肉眼で見ることができる国後島だが、船だと30分でロシアとの



今後の決意をあらためた四島の架け橋での閉会式には、根室市の職員も駆け付けた

れを地元を持ち帰るきっかけとなった良い例ではないだろうか。この集会を通し、私たちは最終日根室市の納沙布岬にある「四島の架け橋」の下で決意したこと、これをからの活動に繋げ、青年団と女性会が共に協力し一日も早い北方領土問題の解決に向け様々な運動に取り組んでいく。